

芳年・芳幾の錦絵新聞

東京日々新聞・郵便報知新聞全作品



郵便報知新聞 1272号



東京日々新聞 697号



東京日々新聞 3号



芳年・芳幾「東京日々新聞 山口県下賊徒追討図」

2008年1月12日(土) - 3月2日(日)

開館時間 日～木曜 10:00～18:00

金・土曜 10:00～20:00 受付は閉館30分前まで

休館日 2月4日(月)

観覧料 一般200円(160円) / 高校・大学生150円(120円) / 小・中学生無料

()内は団体30人以上の料金

同時開催「日本の版画・1941-1950」展のチケットをお持ちの方は無料

関連企画 第8回市民美術講座「芳年と芳幾—錦絵新聞を中心に—」

1月19日(土) 14:00より11階講堂にて 先着150名(入場無料)

講師：浅野秀剛(本館学芸課長)

千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8

Tel.043-221-2311

<http://www.ccma-net.jp>

芳年・芳幾の錦絵新聞

東京日々新聞・郵便報知新聞全作品

明治七年に創刊された錦絵新聞「東京日々新聞」と翌八年に創刊された錦絵新聞「郵便報知新聞」は明治期の錦絵新聞の双璧として名高いものです。千葉県美術館には、リッケンコレクションという、幕末から昭和にいたる版画作品 2000 点余が寄託されており、中でも明治期の錦絵新聞は非常に充実しています。そこで、この度、「東京日々新聞」と「郵便報知新聞」の大判作品を一堂に展示し、錦絵新聞が流行した時代を考えるとともに、二つの錦絵新聞を担当した浮世絵師、大蘇芳年と一蕙斎芳幾の絵を比較鑑賞しようという企画を立てました。リッケンコレクションにない作品は、早稲田大学と東京大学からお借りして展示いたします。

錦絵新聞とは

錦絵とは、江戸時代中期に完成された多色摺り浮世絵版画のことです。したがって江戸時代中・後期の浮世絵版画はほとんどすべてが錦絵ということになります。錦絵新聞とは、錦絵の形態で出された新聞のことですが、見方を変えれば、ひとつの新聞記事を取り上げて、錦絵に仕立てたものということもできます。錦絵の判型である大判・中判といった形で、絵草紙屋から刊行されました。

「東京日々新聞」とは

錦絵新聞のなかで最も早く出され、そして最も多く出されたものです。明治七年八月頃から明治九年まで、大判あるいは大判三枚続のものが114点以上刊行されました。絵は歌川国芳の弟子の一蕙斎芳幾で、版元は具足屋嘉兵衛です。「東京日々新聞」は明治五年二月に創刊された新聞であり、その記事の中から、錦絵にしても喜ばれそうなゴシップ記事を拾い出し、面白くやさしい解説付きの錦絵の形で制作発売されました。芳幾・条野伝平・西田伝助という「東京日々新聞」を創刊した三人がやはり錦絵新聞の創刊にも加わっています。明治七年十月頃には摺りが間に合わないほど飛ぶように売れ、錦絵新聞ブームを作り出しました。



郵便報知新聞 650号



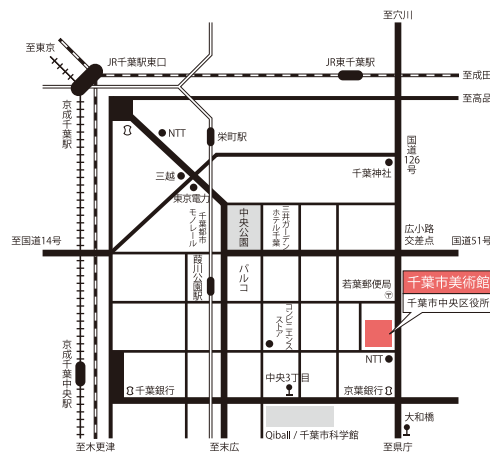
郵便報知新聞 614号

「郵便報知新聞」とは

明治八年二月から、「東京日々新聞」に対抗する形で出された錦絵新聞です。明治十年まで大判あるいは大判三枚続のものが63点以上刊行されました。絵は芳幾の弟弟子の大蘇芳年で、版元は錦昇堂恵比寿屋庄七です。錦絵新聞「東京日々新聞」と同様に、「郵便報知新聞」掲載の記事から拾い出して錦絵の形で制作販売されましたが、解説記事と絵が上下に分かれているのが「東京日々新聞」と異なります。また、新聞の「郵便報知新聞」の関係者が企画に加わった形跡も今のところありません。「東京日々新聞」と「郵便報知新聞」を合わせると、東京で刊行された錦絵新聞の70パーセントに上ります。

【交通案内】

- ◎JR千葉駅東口より
バスのりば7番より大学病院行、または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩3分
- ▶千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩7分
- ▶徒歩約15分
- ◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
- ◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクション経由にて貝塚ICを降り、国道51号を千葉市街方面へ約3km広小路交差点近く中央区役所に併設
- ◎地下に駐車場があります



 千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8
TEL. 043-221-2311
<http://www.ccma-net.jp>